



屋根下葺材

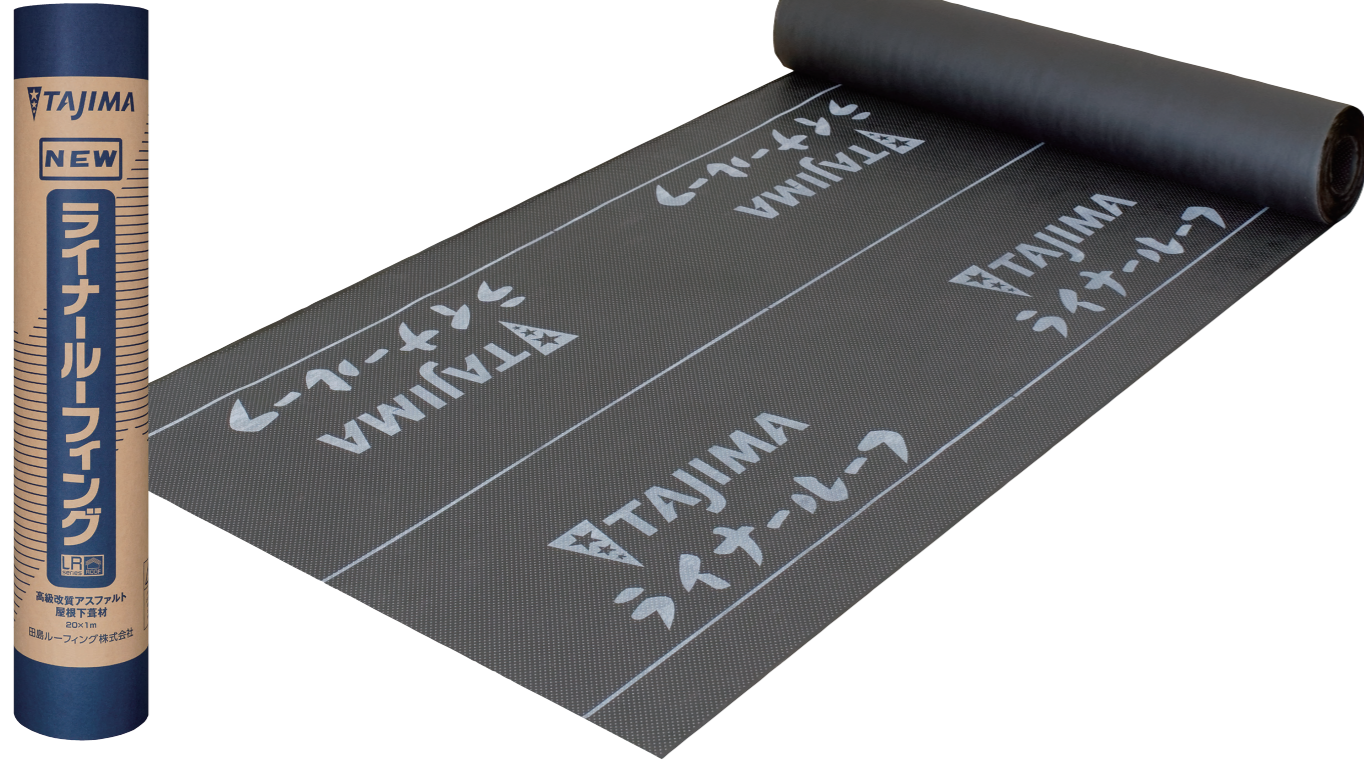
改質アスファルトルーフィング

ニューライナールーフィング

※一般的なルーフィングの寿命は10～15年程度

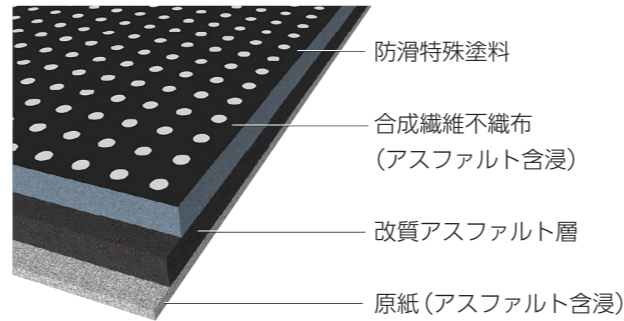
耐用年数

30年以上



製品の概要

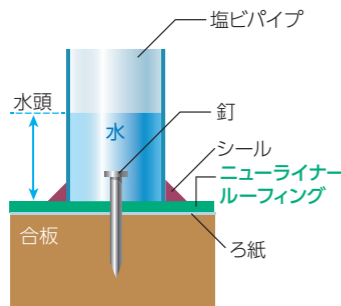
- ・表面被覆材として合成繊維不織布基材と高品質のアスファルトを使用。
- ・中核の改質アスファルトは、釘穴シーリング性に優れている。また、感温比が小さく、高温時、低温時の温度変化の影響を受けにくい。
- ・冬期低温時においても柔軟性があり、入隅直角部でも折れ切れがしにくい。
- ・軽量なので高所勾配面での作業時取り扱いが容易。



製品の特徴

下葺材の重要な特性は釘穴シーリング性です。屋根工事では、屋根材や瓦の固定などに釘を用いるため、数多くの釘が下葺材を貫通します。下葺材は、釘穴からの雨水の浸入を防ぐために使用されます。ニューライナールーフィングは釘穴シーリング性を高めるために、高品質の改質アスファルトを用いています。

■ 静水圧法試験



■ ニューライナールーフィングとアスファルトルーフィング940における釘穴シーリング性

	水頭高	ニューライナールーフィング	アスファルトルーフィング940
漏水個数/試験体数※	30mm	0/10	3/10
	150mm	0/10	8/10

※ シートに釘を貫通させた部分に水頭30mm/150mmの水圧をかけた後の漏水個数

●試験体10個 ●試験温度20℃ ●放置時間24時間

設計・施工

設計・施工は通常の屋根下葺材と同じです。

耐用年数の根拠

改質アスファルトルーフィングの先駆けとなった下葺材で、改質アスファルト層を不織布と原紙で挟み込むことで、防水性・耐久性ともに優れた品質です。アスファルトルーフィング940の防水性能を担っているのは、アスファルトです。アスファルトは経年劣化すると当初の柔軟性を失い、次第に防水性能が衰えていきます。一方ニューライナールーフィングに用いられている改質アスファルトは、アスファルトに比べ2～3倍の柔軟性と耐久性を持っています。経年劣化については、実棟から採取したサンプルによる試験と、試験室での促進劣化させたサンプルによる試験によって評価しています。試験結果から30年の耐久性があることが確認されています。

一般資材との違い

下葺材は屋根に用いられるため、外気温の温度差や時間の経過による膨張・収縮が少ないことが重要となります。伸縮量が多いと釘やステーブルの穴が拡張することもあり、防水性能の低下を招く恐れがあります。ニューライナールーフィングは高品質の合成繊維不織布を用いるため、寸法変化が小さくなっています。

メンテナンス

屋根全体を30年以上メンテナンスしない場合は、高耐久な屋根材を用いる必要があります。メンテナンスを行う場合は、屋根材のメンテナンスに合わせて行います。

■ 一般的な瓦屋根のメンテナンススケジュールとコストの例

築後約30年で瓦を再利用して締め直し、約60年で葺替え(瓦交換)を想定した場合の屋根下葺材のシミュレーションです。

下葺材	補修時期の目安	5年	10年	20年	30年	40年	50年	60年
ニューライナールーフィング		-	-	-	全交換	-	-	葺替え
アスファルトルーフィング940		-	部分交換	部分交換	全交換	部分交換	部分交換	

LCC

高耐久仕様 : 160万円
一般仕様 : 250万円

※60年間での新築(建設)時とメンテナンス(使用)時のコスト比較

※材料費、足場、工事費含む

提供価格

条件により異なるため個別にお問合せください。

免責事項・適用条件

屋根材仕様による。

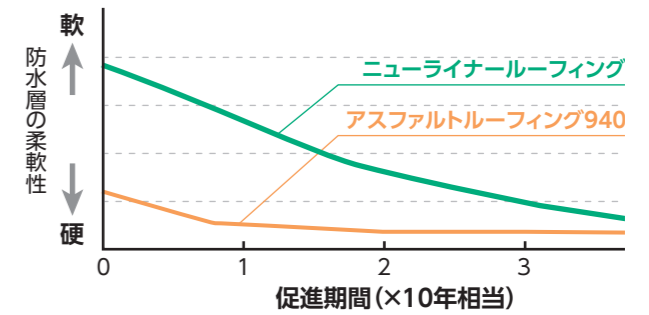
特にアピール

1981年発売以来、40年以上の販売実績があります。

田島ルーフィング株式会社
 住建営業部
 電話 03-5821-7713
<https://tajima.jp/juken/>
 ホームページはこちら



■ 防水性能の経年変化



※当社促進劣化試験および経年実棟調査による

■ ニューライナールーフィングとアスファルトルーフィング940における寸法安定性

		ニューライナールーフィング	アスファルトルーフィング940
伸縮量※ (mm)	長手	-1.5	-1.1
	幅	+1.4	+3.3

※JIS A 6022 ストレッチアスファルトルーフィングフェルトに準じる。